

令和2(2020)年度 努力目標・具体的な手段・自己評価

令和2年12月実施

教育目標・学校像	「豊かな人間性と自ら学ぶ態度を育み、地域を支える産業人を育成する」	重点目標・評価項目	ア 規律を遵守させるとともに、高校生としての品位ある姿を身につさせ、社会生活に必要なマナーや社会性を育む。 ○遅刻・欠席や早退を減らし、規律ある生活習慣を確立させる ○品位ある身だしなみをさせ、挨拶を励行させる ○時間厳守による節度ある学校生活の徹底 イ 魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学習習慣を確立する。 ○わかる授業の実践 ○学習習慣の確立 ○資格取得率の向上 ウ 自己実現を図るために個性の伸長を図り、校外活動への積極的な参加を奨励することで、自主性や主体性を育む。 ○部活動の活性化 ○進路指導の充実 ○地域連携活動の推進
	(1)専門的な知識・技能の習得を目指し、学ぶ楽しさや学ぶ方法を知り、将来に役立つスキルを身につける学校 (2)地域交流や地域貢献を通して社会に役立つ人材を育てる学校 (3)自然を対象とした学習を中心に豊かな人間性をはぐくむ学校		

各部等の自己評価

		重点目標	具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】
重点目標		規律を遵守させるとともに、高校生としての品位ある姿を身につさせ、社会生活に必要なマナーや社会性を育む。	遅刻・欠席や早退を減らし、規律ある生活習慣を確立させる	2.8 新型コロナウイルス感染症による影響が考えられるが、次年度の指導が重要になると思われるため、丁寧な対応を進めたい。
			品位ある身だしなみをさせ、挨拶を励行させる	3.1 生徒指導部や学年を中心に取り組んできたことにより、大きな改善が見られる。さらに学校全体で取り組みを進めたい。
			時間厳守による節度ある学校生活の徹底	3.2 校内の移動が多い中、生徒は時間を意識して行動している。今後も継続できるよう指導したい。
		魅力ある授業を実践し、学習意欲を高め、学習習慣を確立する。	わかる授業の実践	3.1 学習指導部や教科、学科を中心に取り組んできた。今後は新しい学習指導要領を意識した指導を展開していきたい。
			学習習慣の確立	3.0 朝の学習についてはおおむね良好であるが、家庭学習にはつながっていない。継続して粘り強く指導を進めたい。
			資格取得率の向上	3.0 生徒の資格取得意識は高まったように思われる。今後は資格取得に向けた丁寧な指導を進めたい。
		自己実現を図るために個性の伸長を図り、校外活動への積極的な参加を奨励することで、自主性や主体性を育む。	部活動の活性化	3.0 新型コロナウイルス感染症によりこれまでのような活動ができなかったが、できる限りの活動を実施できた。
			進路指導の充実	3.0 新型コロナウイルス感染症によりこれまでのような活動ができなかったが、模試の対応をもう少し早くすすめたい。
			地域連携活動の推進	3.0 新型コロナウイルス感染症によりこれまでのような活動ができなかったが、できる限りの活動を実施できた。
		努力目標	具体的な手段	自己評価及び反省事項【自己評価は4点満点】
教務部	重点目標関連	教育活動が各分野で円滑に行われるよう、教務事務およびその整備・改善を遂行する。	教育課程の適切かつ効果的な運営に努めるため、チャイムプログラムの事前設定を実施する。	4.0 前年度の反省事項をうけ、月間予定表等により毎月末において次月のチャイムプログラムを事前設定した。今後も継続したい。
		教育活動が各分野で円滑に行われるよう、教務事務およびその整備・改善を遂行する。	諸帳簿・書類の適正な作成と保管を行うことにより、教務関係の事務効率化を推進する。	3.7 前年度の反省事項をうけ、職員室及び印刷室の整理整頓を行った。今後は各学科・各教科準備室等をはじめとする箇所においても整理整頓を行い、スムーズな教務事務が展開できるようにしたい。
	それ以外の事項	学校教育目標達成に向けた機能的な学校組織確立のために、各種企画や連絡・調整に努める。	学校行事の見直しと適正配置に努め、本校ならではの教育作りに向けた検討を推進する。	3.0 新型コロナウイルス感染症による影響によって、当初の計画が大幅に変更される事態となったが、この影響によって見直しがうまく進んだ場面も見られた。今後はWithコロナを意識した検討をしていきたい。
		保護者や生徒および関係機関への情報提供や連絡を円滑に遂行する。	学校Webページや一斉メール等を活用して保護者や生徒への情報提供や連絡に努めるとともに、学校行事等の迅速な公開に努める。	3.5 新型コロナウイルス感染症による臨時休校があったことから、一斉メールの活用を積極的に行った。また、行事予定のほか、学校行事や各学科の取り組みを中心に、積極的に学校webページの更新を行った。今後は部活動等についても積極的な公開に努めたい。
	情報管理部	重点目標関連	ガイダンスにおける新入生保護者への呼びかけや、2～3学年担任へ未登録者リストを配布することにより、一斉メール(SchIT Mail3)のアドレス登録者を増やす。	3.0 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあつてか、新入生の新規登録は98.6%で非常に高い登録数であった。2～3学年の新規登録もあったが、新規登録10名を超えるには至らなかった。
			学科再編に伴い教育課程が変更されたため、成績一覧表等に用いられている数式を組み直し、成績会議や調査書作成に有効な成績処理システムを構築する。	2.7 学科再編に伴う成績処理システムの変更を問題なく行うことができた。従来の様式においても改善すべき点が何点か挙げられたので、今後の改善に繋げていきよりよいシステムを構築したい。
		それ以外の事項	学校HPを充実させ、学校内外に対する情報発信の手段として有効活用する。	3.2 メール内容の迅速な掲載、バナー位置の改善など学校HPを充実させることができた。各学年・学科・部活動などの情報をHP担当が把握できれば、HPの情報更新の活性化に繋がると思われるので、方法を検討していきたい。
			貸し出し用PC、プロジェクター、スクリーン等の貸し出し状況を把握する。	3.2 新たに整備したネームプレート式の貸し出し簿により、一目で貸し出し状況が分かるようになった。しかしながら、ネームプレートを使わない無断での持ち出しも数件あったため、協力の徹底を周知したい。

学習指導部	重点目標関連	授業・実習の充実	(1)授業時間の確保：始業時間・終了時間の厳守 (2)分かる授業・魅力ある授業の展開 (3)迅速で正確な成績処理と生徒への返却	3.0	- 授業に関して、生徒が理解できる魅力ある授業が出来るよう最大限の努力を続けたい。 - 実習があると、次の授業に遅れがちになってしまうことがある。生徒に素早く着替え、移動するよう促したい。 - 迅速な成績処理を心がけた。 - 成績処理システムに曖昧な点があり混乱するところがあった。共通理解を徹底すべき。 - 迅速な成績処理のためには、テスト期間中に行事・研修や会議などを行わないようにしてほしい。
		基礎学力向上のための取り組み	(1)朝学習の効果的実施に向けた、内容の改善と指導の徹底 (2)家庭学習を促すための課題の作成・提示	2.6	- 朝学習は、そのクラスも静かに落ち着いてやることが身につけているので、実になるようにしていくことが大事だと思う。 - 家庭学習への促しが不十分。勉強する意味を生徒に伝えることが必要。 - 冬休みの課題一覧を今年は配布できた。 - 専門教科は週末課題を出しているところがあるので、基礎学力の定着の観点から、計算などの課題を出すことも願う。 - 朝学で1～2年生は、生徒の実態に即して、英数で単語テストや、授業とつながっているプリントを実施できたのがとてもよかった。
	それ以外の事項	資格取得率の向上	(1)生徒への各種資格取得の奨励と、資格の精選 (2)資格取得率向上のための指導の充実 (3)資格取得者の報告と記録	2.9	- 合格者数が増えた資格検定がいくつかあった。 - 資格取得の大切さを生徒が理解し、自主的に取り組み、積極的に挑戦する生徒が増えたように感じる。 - 資格取得のための指導が不十分な点があった。 - 希望者が受検するものについては、もっと受験者を増やせたらよいと感じる。資格の精選と意欲の向上の取り組みが必要なのは、漢字検定は、予定通り3回とも実施できた。
		プロジェクト活動や、ボランティア・交流活動の充実	(1)ボランティア活動の紹介と参加の奨励 (2)地域交流活動の充実 (3)課題研究の授業内容及び報告書の充実 (4)各学科・団体のプロジェクト活動の充実	3.1	- 新型コロナウイルス感染症の影響で外に出ることが難しかった。 - 新たな活動方法を見いだしたい。 - 学科での取り組みが多く、それに参加する生徒も多かった。 - コロナ禍でボランティア活動や地域交流活動が出来なかった。 - 地域交流活動は十分に出来た。
生徒指導部	重点目標関連	基本的生活習慣の確立	・遅刻が常習化している生徒への働きかけを強化し、規則正しい生活が確立するようなサポートを行い、遅刻者の延べ人数の減少を図る。 ・欠席者の把握に努め、欠席が長期化しないよう早めに対応し、長欠者の減少に努める。	3.0	新型コロナウイルスに関する配慮が必要な生徒を除いて、全体としては概ね良好な出席状況であった。一部の生徒が不登校になっているが、医療機関、教育相談係、スクールカウンセラーとの連携も強化しており、対応はできている。
		服装容姿や言葉遣いに対する指導の徹底	授業だけでなく休み時間も含め、全職員で日常的に指導を行い、高校生としての正しい在り方について生徒の理解を深めさせ、自己指導能力高める。	3.1	生徒自ら考え、行動する生徒が増えたため、生徒間、生徒と教師の間におけるトラブルも劇的に減少している。服装容姿については、一部の生徒でワイシャツの第一ボタンが外れている者が何度も注意を受けることがあったものの、大きく規定を外す者はほとんどいなかった。前年度と比べても劇的に改善している。
	それ以外の事項	いじめや問題行動、ネットトラブルの防止	・教員間の情報交換の機会や連携を密にし、いじめや問題行動等の発生防止に努める。 ・いじめや問題行動等の未然防止の観点から、休み時間等の巡回指導を実施する。加えて、新型コロナウイルス感染者や医療従事者受診への差別などが起こることのないよう、徹底した人権尊重の呼びかけを継続していく。また、ネットトラブル未然防止のための監視を強める。	3.3	いじめ防止対策推進法に沿う対応ができており、いじめ未然防止のため、組織的な動きが概ねできていた。しかし、生徒のSNS利用の仕方が年を追う毎に巧みになっており、生徒らのSNS上での会話が表面化しにくく、監視には限界がみられた。未然防止に向け、生徒の自己指導能力を高めることが最善の策であるが、教職員の知識を向上させるための研修が必要であると考え、校内研修を実施した。
		交通規則の厳守やマナーの醸成	違反する生徒への指導を徹底し、指導を通して規則やルールを守れる生徒の育成を図る。	3.0	生徒全体としては概ね良好であったが、地元住民の方から苦情の電話をいただくことは複数あった(前年度の半分以下であるものの)。朝の立哨指導を実施しているが、全ての危険箇所をカバーするには限界があることが課題である。今年度は、栃木警察署主催の交通安全教室を開催していただき、生徒の交通規則厳守とマナーの醸成を向上させる取り組みを行った。
進路指導部	重点目標関連	キャリア教育の推進	学習内容や指導法、生活・学習習慣・体験的な活動をマイプロフィールと意図的に関連づけ、相互に繋げながら実践する。	3.0	- 進路実現に向けて、段階的な指導ができた。 - コロナ禍もあるが、外部の話を開けないのが苦しい。 - 学科を中心に体験的な活動を行えた。 - プロフィールの積極的な記入ができた。
		進学体制と就職体制の強化	進路指導部が中心となり、学科・学年・教科との連携を図る。	2.8	- 学年によって、進路指導部との連携に差があった。 - 学年毎に進路の動きが異なるので、運営を一本化できると良い。 - 学年間の情報共有ができていないので、次学年の動きがわからない。 - 学年の意向もあるが、進路指導部として、全体の運営を行って欲しい。
	それ以外の事項	進路先(大学等、企業)の開拓と情報の共有化	これまでの実績を基に計画的に進路を開拓するとともに、学科の関連産業を開拓し、進路選択へ進めていく。	2.8	- 全体で連携したという傾向は低かった。 - 関連産業以外からの求人が多く、産業毎に求人を選別したい。 5月の会社訪問が行えなかった分、挨拶の文章が出せたことが良かった。 - 関連産業のみならず、希望調査で聞き取った業種について、開拓できなかった。
			生徒が主体的に情報を収集し、進路について相談ができるような進路指導室の環境を整える。	3.0	- 生徒が気軽に利用や相談できるように声をかけをしていきたい。 - 多くの生徒が積極的に進路室を訪れ、主に就職に関するアドバイスを受けていた。進学面にももっと伸ばせると良い。 - 一部の生徒が進路室に居座る様子が見られた。
健康指導部	重点目標関連	健康管理意識の向上	受診勧告を学期毎に通知する。また、個別に受診勧告し、受診率が向上するよう働きかける。 健康管理について、機会のあるごとに啓発する。	3.2	自分の症状に合わせて受診を促すことができた。
		生徒の安全指導に関する的確な指導	マラソン大会の安全な実施に向けて、十分に準備し全職員の協力で実施をする。 体育時での事前指導、観察や学校医等による生徒の健康状態の把握など事前準備の徹底。	3.4	活動前後での確認や活動中の観察など協力してできたと思う。
	それ以外の事項	防災意識の向上	災害への適切な行動ができるよう、生徒の意識を高める防災指導、避難訓練を行う。 定期的に安全点検を実施する。	3.2	避難訓練の際に、実施している意味をしっかりと理解させていきたい。

特別活動部	重点目標関連	学校行事において、生徒主体の積極的な参加を進める。	各種行事において、生徒各自の役割分担を事前に確認し把握させ、個人個人が主体的に動けるよう指導する。	2.9	・コロナウイルス感染のため、特別活動(学校行事)の大幅な予定の見直しをした。ソーシャルディスタンスを保ち、感染防止対策をしながら活動することは大変困難で生徒の自主的な活動を制限、禁止せざるえなかった。その中でも方法を模索しながら実施した学年毎の球技大会は新しい形として、次年度からの参考になった。 ・部活動においても、満足な活動を許可することができず、生徒たちのプラストレーションもたまっていった。現在も、制限の中で活動をし、今後も顧問間で共通な意識を持ち指導に当たることが大切であると考え。 ・また、生徒登校禁止期間を利用し内規(生徒会会則・部活動規程等)の見直し改善ができた。
	それ以外の事項	各部活動において、各種大会に積極的に参加を促し、そのための主体的な練習とその補助に努める。	日頃の活動全般において、生徒が主体的に活動できるよう職員が援助・協力する。	2.8	
		3年間、各自が目標を継続的に活動することで学ぶことのできる、その意義とその効果を理解させる。	継続的に活動させることにより、集団におけるルール・マナーを身につけさせ、生活習慣がの確立を確認させる。	2.9	
環境整備部	重点目標関連	学習環境の改善・整備 ※教室、実習室、準備室の整理整頓	下校時に机上、ロッカーに物を置かない状態にし、机、ロッカーを整理させて下校させる。 大掃除の際、窓、ロッカーの後ろ等 日頃できない場所の清掃を徹底する。	2.6	・常にロッカーの上に物が広がっているクラスが見られた。 ・整美委員を指導し、改善を図るようにしたい。
		学習環境の改善・整備 ※施設、設備器具の点検、計画的修繕	清掃用具入れ、ロッカーや下駄箱のフタなど破損した箇所の調査・修繕・整備を行う。	2.8	・破損箇所が多く残っている。(特にロッカー等) ・清掃用具の調査、補充に関しては実施でき、改善が見られた
	それ以外の事項	校舎外環境の改善・整備	グラウンドや校舎周辺の環境整備を行う。	3.0	・校舎外の環境整備は、定期的の実施できた。
			定期的に薬剤散布を実施する。		
渉外部	重点目標関連	新会長のもとPTA組織を円滑に運営していく。	会長と連絡を密に取り、本部役員の方を中心に多くのクラス役員に協力して頂き、進んでPTA活動に参加してもらう。	2.7	限られた活動の中ではあるが会長と連絡を密に取り、本部役員さん、クラス役員の皆さんの協力が得られた。新型コロナウイルスの影響でPTA活動自体が中止となり、活動の場がなかった。
		新型コロナウイルス感染症の影響で限られたPTA活動の中で、PTAとして学校教育に協力していく。	今まで経験したことのない状況の中でPTAとしてできることを出し合い何が必要で何ができるかを検討していく。	3.2	1学期は、紙面によるPTA総会、生徒宅へ課題の郵送料金の承諾を得ることができた。 2学期は、PTAのテントの片付けやPTAの物品整理を実施出来たことや、感染予防に努め研修旅行も実施できた。
	それ以外の事項	地域連携活動を推進する。	栃農祭や校内持久走大会に協力するなどして、地域の方々と交流を図り、地域連携を推進する。	2.4	新型コロナウイルスの影響で、PTA活動はやれなかったが、地域の方に対する交流は、感染に気をつけて実施するできた。
		渉外に関わる各種の事務手続きを滞りなく行う。	PTA同窓会・教育書団体の円滑な運営、事務手続きの実施に努める。	3.1	どの係もそれぞれ、係の仕事を滞りなく実施することができた。
農場部	重点目標関連	授業や実験・実習の充実	始業時刻や終了時刻を厳守し授業時間を確保する。 授業の内容にふさわしい服装容姿の徹底を図る。	3.2	時間の徹底が出来た(TT、教諭実習職員との連携など) 一部の生徒の遅れが続いた 授業開始時の服装確認を徹底し、容姿の乱れを防止できた 一部の曜日の授業が出来ないことが多かった
		開かれた農場づくりのための関係機関との連携・交流	キャリア形成支援事業・栃木地区農業教育連絡協議会・その他による連携・交流を推進し、生徒の積極性や意識向上を図る。	2.8	コロナの影響で交流が難しかった。 交流の費用の出所がはっきりでしたので交流しやすかった コンクール等に出展できた 連携授業が「開かれた農場作り」につながったかは分からない 専門学校と連携して授業に取り組む事ができた
	それ以外の事項	学習環境の改善・整備	より良い学習環境作りのため、施設設備及びその周辺等の整理・整頓・整備を実施する。また、適時に修繕や更新の要望を行う。	2.7	時々整理ができなかった GIGAスクール構想を進めたい。 施設設備の修繕・更新要請について迅速にできなかった 施設設備の老朽化が進んでいるが更新が進まない 20人以上の授業が密になってしまった。教室の確保を要請したい
		農業教育指導の充実	指導方法の工夫や改善に努める。 常に教材研究に取り組む。 新しい技術や先進事例等の研修に参加し、自己の能力向上に努める。	2.7	ICT導入等農場全体で取り組んでいる 視聴覚機器を取り入れた授業実践を心がけたい 学科間連携の授業を展開したい 研修等積極的に参加できた

1 学 年	重点目標関連	基本的な生活習慣確立のための指導	・出席率98%以上を目指す指導。 ・服装容姿、挨拶、返事をしっかりさせる指導。	3.1 ・服装容姿が細かい部分で乱れる生徒が出てきた。 ・不登校者の指導について、今後も各部、各機関と連絡して、対応していく。 ・特定の生徒の欠席が多く今後も指導が必要であるが、全体的に欠席する生徒が多い。
		自分から進んで何事にも取り組む姿勢を確立するための指導	・学習する習慣を身につけさせ、欠点を取らないようにさせる指導。 ・まず考えて行動する習慣を身につけさせる指導。	2.9 ・後半、学習意欲の低下、「考えてからの行動」が不十分な生徒が見られた。
	それ以外の事項	生徒の心身のケアをおこない、生徒個人個人の能力を伸ばす指導	・生徒との面談を密にし、関係部署、保護者、関係機関との連携を密にする。 ・情報の共有をし、学年全体で当たる体制を確立する。	3.2 ・生徒との面談は密に行い、関係部署等とも連携はとれていたが、さらに強化していく必要がある。
2 学 年	重点目標関連	創造し、行動し、挑戦させるための指導	・今の自らが置かれている状況、環境を把握し、今何をすべきかを考え、行動させる。その結果をイメージし失敗を恐れず挑戦する強い心を持たせる指導 ・行動にするための援助	3.0 コロナ禍の状況の中、行動が制限されている。マスクの着用、食事の方法等今までと違う形を求められている。その状況を把握し行動するには時間がかかった。少しずつ定着し、それが自然とできるようになってきた。
		社会通念に即した基本的な生活週間確立のための指導	・「欠席、遅刻、早退」をより少なくするための各種指導の実践 ・TP0に準じたその場に応じた正しい服装容儀、正しい言葉遣いと適切なコミュニケーションのための指導	2.7 決まった生徒の欠席・遅刻をなくすことはできなかった。言葉遣いも意識すれば適切なコミュニケーションを取ることができるが、それが自然ではない。
	それ以外の事項	「けじめ」「メリハリ」を大事にする指導の実践	・挨拶（コミュニケーションの第1歩） ・返事（はい、いいえを判断して） …自分の発言への責任 ・清掃（後片付け）…心を整える - 以上のような様々な指導	3.3 修学旅行の様子などからメリハリをつけた生活、時間等を判断して行動することができた。
		小論文・作文に取り組みせ、進路指導の一つとして意識を高める指導	・朝学(R80)の実施 ・定期的に小論文課題に取り組みせる	3.5 まだまだ定着とは行かないが、文を書くということを楽しみながらできる生徒が増えた。
3 学 年	重点目標関連	より高い進路目標、将来像への先導	・計画的な進路指導(面接や課外など、生徒が主体的に動けるような企画とガイダンスの徹底)を学年全体で行う。 ・進路の先にある将来像を持たせる指導を徹底し、出口誘導ではなく、社会や家庭を築く大人へと導くための指導を学年全体で探求する。	3.5 様々な計画があり、生徒が主体的に動けるようになってきた。学年間で連絡を取りながら取り組むことができた。例年とは違う、様々な計画変更があった中でも粘り強く指導ができた。
		社会通念に即した人間(社会人・成人)形成・自立のための指導	・日頃の些細な場面においても、少しずつ社会人の立場に置き換えた指導へと移行させる。 ・基本的な生活習慣が確立されていない者や要支援の者への指導についても、民間企業等を基準として、改善を促したり適切なサポートを取り入れていく。 ・全員が自立して一人暮らしを行うという想定で、身の回りの各種生活指導も日常のHR活動や学年行事等でも行う。	3.5 社会人という考え・視点を持たせられた。まだ社会に出る意識が感じられない。継続した指導が必要。遅刻や欠席が多い。社会人に向けた個別の指導が必要。幼さが依然として目立つ生徒もいるが、全体的には成長を感じる。
	それ以外の事項	学校や学科、地域に誇りを持てるような(郷土愛や帰属感を育む)機会の提供・指導	・卒業直前の指導において、高校生活を振り返り、多くの人や地域に支えられていることを考えさせるような学年行事、HR指導等を計画、実施をする。 ・進路決定後も一貫して、進路先のため後輩のためにも責任ある行動を取れるよう、継続的な各種の指導を行う。	3.3 一人の大人・社会人としての責任ある行動を考えさせる指導ができたと思う。進路決定後に乱れる者が目につく。
植物科学科	重点目標関連	実習中の事故を未然に防ぐ。「安全・安心」な農産物を生産し、消費者に納得していただける管理体制を整える。	毎時間、生徒に作業服を着こなす指導を行い、農業機械への巻き込み事故や商品への異物混入を防ぐ。	3.0 学期末になると帽子の紛失が目立ったが年間を通して比較的できた。作業服の着こなしは良くなっていると思う。一部の生徒で帽子を被らなくてもよいと勝手に判断している生徒がいるため、定期的に指導してるが改善されない。新たな方法を考える。
		2年生を中心に、始業前や放課後に農作物の管理や観察を定期的に行うことによって、物事に継続して取り組む力を身につける。	土地利用生産コース(作物・果樹)と園芸植物コース(野菜・草花)の選択生は、各担当教員の指示のもと収穫作業や生育調査などを行う。	2.3 一部の生徒の意識の低さが目立っているため次年度以降の課題である。
	それ以外の事項	生徒の活動を校外へ発信し、本校のPR活動を盛んにする。	各部門(作物・果樹・野菜・草花)、毎月1回はホームページを更新し、校外へ情報を発信する。	2.1 作業に追われて写真撮影ができず、ホームページ更新に繋がらなかったためデジタルカメラを携帯するクセをつけたい。なかなか月2回の更新はできなかった。
		学校パンフレットに示されている「地域活性化」「グローバル」「育てるって楽しい!!」などに沿った教育活動を展開する。	左記のワードに沿った講義や実習などを実施し、学習内容を充実させ、生徒の学習意欲を高める。	2.0 収穫と試食を実施することができたため「育てるって楽しい」ということについては達成できた。しかし「地域活性化」「グローバル」については今ひとつである。講演会やグループワークを取り入れていたが、なかなか指導にのれない生徒が見うけられた。

動物科学科	重点目標関連	時間厳守と身だしなみの徹底	・実習時の集合、整列時に重点的に指導する。	3.3 ・日々の当番実習において、遅刻や欠席者がいた。
		魅力ある授業の実践	・授業の充実を図るため、教材や飼育環境の整備を行う。 ・専門学校と連携した授業を実施する。	4.0 ・専門学校と連携した授業を実施、所期の目的を達成できた。 ・ICT機器のデモ導入、動物種を増やすことができ、整備が進んだ。
	※目標等を変更 それ以外の事項	生徒の学びをサポートする環境整備	・朝や放課後、休日等の動物管理実習を受け入れる体制を整える。	3.0 ・当番実習の流れが整った。 ・外部の大会に出場するため、生徒が自主的に放課後等に管理実習を行った。
		学科の広報	・HPを積極的に更新し、新学期の情報externに発信する。	3.0 ・12月末時点で20回記事を更新することができた。今後も外部に学科の魅力をアピールしていく。
食品科学科	重点目標関連	規範意識の定着・衛生管理の徹底	(1)授業時間を守ることができるように指導を行う。 (2)実習時の正しい実習服の着用を指導するとともに、協力して作業をすることの大切さを実感させる。	2.8 ・実習服を忘れる生徒が若干いる。 ・時間は守れてきている。あと一步のところまできているので継続して指導する。
		学習意欲を高め、専門的知識の定着を図るとともに、わかる授業を展開する	(1)座学と連携させた、基礎的な内容の実験や実習を実施する。 (2)生徒が意欲を持って取り組める学習活動を実践するために、教材研究を充実させる。	2.8 ・社会的に注目される食品分野について授業へ導入し、学習意欲の向上につなげることができた。
	それ以外の事項	進路実現に向けた指導の充実を図る	食品関連産業従事者育成のために、実習等で専門的な内容に触れ、職業人の育成を図るとともに、自ら主体的に行動できる人材を育成する。	2.8 ・主体的に行動できる生徒が増えてきている。 ・指導継続の重要性を改めて感じた。 ・職業観を取り入れた授業の実施ができた。
		コミュニケーション能力の醸成	グループワークや地域交流活動等に参加し、体験交流の機会や他の意見に触れる機会を設ける。	2.8 ・感染症予防の観点から、交流活動が限定的になり、思うように進めることが難しかった。 ・さくら保育園との交流活動に参加した生徒のコミュニケーション能力は向上したように思う。 ・グループワークを率先して取り入れた。
環境デザイン科	重点目標関連	学習意欲の向上と専門的知識・技術の定着	(1)専門学習への興味・関心・理解を高め、コース選択や進路選択時に学科の学びを深めたいくなるような授業並びに取り組みを計画・実践していく。 (2)実習服などの身だしなみや道具の取扱、安全管理など、自主的に判断し、行動に移せるように指導していく。	3.3 ・限られた期間の中で、工夫を凝らした授業や実習を実施することができた。 ・興味関心を持たせるような外部と繋がるような取り組みができた
		環境デザイン科ならではの「環境人」の育成	(1)SDGsや地域連携など学科の取り組みを理解し、主体的に行動できるように働きかけをしていく。 (2)学科独自の環境活動や地域貢献活動を計画し、スモールステップ(3年計画)で成果をあげる。	3.0 ・地域連携の活動が複数継続できており、その経験から生徒に変容も見られている。
	それ以外の事項	生徒の自主性・主体性の向上	(1)地域連携活動や資格取得など、生徒が自主的に取り組めるような仕組み・仕掛けを構築する。 (2)学科の学習内容を活かし、各種コンクールの応募や農業クラブの各種競技会等への参加を積極的に取り組む。	3.3 ・例年より応募数は少なかったが、入賞を果たすなど結果も残すことができた。
		カリキュラムデザインや教材などの評価並びに再検討	(1)専門学習の進め方や関係機関との連携方法について、詳細な準備を進めたり、これまで実施した内容について振り返りを行う。 (2)教材や施設・設備の準備・計画などを進め、適宜再検討も行う。	3.0 ・まだまだ手探り状態で、教材や施設設備等は課題が山積している。
農業科	重点目標関連	生徒は長期休業中に出勤し農場の経営、管理に努め、専門性を高める。	長期休業中の各部門の状況を把握し、実習を展開して、学科の組織力を強化する。また他学科との連携も図るよう努める。	2.5 ・年間を通して実習が取り組めるようになってきた。長期休業中に限らず、朝、放課後の実習に参加する生徒も増えた。 ・状況に応じた出勤をさせることができた。 ・冬休みの出勤は実施しなかった。
		生徒の資格取得率の向上に努める。クラス在籍の半数以上が今年度2つ以上の資格取得を目指す。	特に農業に関する資格に力をいれ、合格者が増すように、放課後指導を充実させるなどの工夫をする。	1.6 ・資格を取得する意欲のある生徒とそうでない生徒の差が大きかった。特に全員が受験する資格は今年度はなかったため、意識の差が顕著に出た。
	それ以外の事項	農業科の啓発活動に努める。	HPの更新を月1回実施し、農業科の活動を継続して更新する。	1.8 ・月に一度の更新が難しかった。特に休校明けの6月～8月がHPの更新が少なかった。 ・特定の部門の更新が多く、すべての部門で月に1度の更新ができなかった。
		生徒の安全管理の徹底や規律、規範の遵守	作業中の安全管理、実習服の着こなし方など(生徒の安全管理意識)の指導を徹底しケガや事故の防止に努める。	3.1 ・実習着の着こなしはできるようになってきたと思う。 ・実習着忘れを除いて、着こなし等はできていたと思う。 ・着こなしができ、実習中の安全管理にもつながったと思う。

生物工学科	重点目標関連	安全管理を徹底する	実習着・白衣を適切に着用させ、休み時間等でも教員間で連携し、事故やケガのないよう危機管理を徹底する。	3.4	・服装の徹底やけがに対する対応は実行できた。
		生徒の学習意欲を高める	実験や実習を積極的に取り入れたリ、関連施設・産業の見学などの機会を設け、生徒の興味関心を高めるような授業の改善に努める。	2.4	・前半コロナの影響で実験が実施できず、後半実験を入れられるようになったが、不十分であった。
	それ以外の事項	生徒の学習環境を整える	○チャイムと同時に授業を開始し、作業着や白衣など正しく着用させる。 ○レポートやノートへの記録、ファイルやプリントを適切に管理できるよう指導する。	3.0	・チャイムと同時に開始は、なかなかできなかった。生徒に早め早めの行動を呼びかける。
			○各部門で使用する施設や設備の整理整頓を徹底する。 ○不要なものについては適切に処分する。	2.4	・整理整頓が不十分であった。不要な物は処分するように心がける。 ・薬品管理はできていたが、その他の器具等の管理や不要物の処分が不十分であった。不要物に関しては、片づけを始めている。
農業土木科	重点目標関連	学習活動における態度や規範意識の醸成	(1)学校において授業が最も大切であることを意識付けさせ、チャイムtoチャイム、服装面やノート等の記録など、各授業内でのルールや約束事が確実にできるように指導を行う。 (2)実習時には実習服を正しく着用させるとともに、ヘルメットや安全靴の着用など安全面への指導を徹底する。	3.3	・後半になり、怠惰傾向の生徒もいたが、安全面への取り組みや約束を守る姿勢などは例年に比べて良くできた。
		「やりがい」や「自信」を持たせる取り組みの企画・実践	(1)学科の学習内容に関連する資格取得指導を計画的に行う。 (2)課題研究や課外活動において、深化した内容を研究できる機会を提供する。 (3)今までできなかった実験・実習の機会を創出し、生徒が意欲を持って取り組める学習活動を実践する。	3.5	・国家資格の受験者が複数名出る見込み(測量士補は10年ぶり)。 ・コロナ対策をしながら、さまざまな取り組みを実践することができた。
	それ以外の事項	生徒の自主性・主体性の向上	(1)地域連携活動を通して、専門的なスキルや知識の向上を図る。 (2)学科の学習内容を活かし、各種コンクールの応募や農業クラブの各種競技会等への参加を積極的に取り組む。	3.0	・例年より応募数は少なかったが、入賞を果たすなど結果を残すことができた。
		閉科に向けての取り組み	(1)学科の歴史や成果等を回顧し、広報物による発信や新学科への引き継ぎなど、学科をきちんとした形で閉じる。	3.0	・想定していた記念事業は実施を断念した。 ・卒業制作のような形で、様々な取り組みを完結させたい。
食品化学科	重点目標関連	規範意識の定着・衛生管理の徹底	(1)授業時間を守ることができるように指導を行う。 (2)実習時の正しい実習服の着用を指導するとともに、協力して作業をすることの大切さを実感させる。	2.6	・実習の際、服装に乱れがあった。 ・実習服を忘れる生徒が若干いる。 ・時間が守れるようになってきた。 ・実習前のクラスへの連絡不足があった。
		進路実現に向けた指導の充実を図る	食品関連産業従事者育成のために、実習等で専門的な内容に触れ、職業人の育成を図るとともに、自ら主体的に行動できる人材を育成する。	3.0	・職業観を取り入れた授業展開ができた。 ・自ら考えて行動できる生徒が増加してきた。継続して指導したい。
	それ以外の事項	学習環境の整備	実習で使用する施設・設備の整理整頓を徹底し、生徒が作業に集中出来るような環境を整える。	2.4	・ある程度はできた。 ・授業時間内に片付け等が終らない事があった。 ・使用した道具が元の場所に帰っていないことがあった。
		コミュニケーション能力の醸成	グループワークや地域交流活動等に参加し、体験交流の機会や他の意見に触れる機会を設ける。	2.6	・実施出来たが、感染症予防の観点から限定的であった。 ・グループワークを率先して取り入れた。 ・今後地域交流活動に参加する機会を増やしていきたい。
生活科学科	重点目標関連	生徒一人一人が卒業後を見据え、自ら行動できるための積極性や協調性など、高校生として当たり前のマナーを培う。	授業にふさわしい容姿を確認し、授業の始まりと終わりを明確化することで、品位有る身だしなみでの授業態度を徹底する。	3.0	容姿の徹底を行ったが、忘れ等目立つ生徒が一定数いた。指導は継続的におこないたい
			プロジェクト活動の充実 ※地域農産物の利用、普及を自治体や関係機関とおこなう	2.0	コロナ渦であることおよび、本学科は閉科に向けて進んでいるため、それほど大々的な活動は行えなかった。
	それ以外の事項	閉科に向けて、行事やほ場等の精選及び、見直しをおこなう。	体外行事などで学習効果が期待できるものは計画的に他学科等へ引き継ぐなど、地域連携も視野に入れた精選をおこなう。	3.0	保育交流など他学科へ引き継げた。
			用具等の整理をおこない、次年度引き継いだ担当が利用しやすい、ほ場および作付けをおこなう。	3.0	圃場を計画的に利用することが出来た。